

リーベルに集う仲間たち

《みんなでスポーツをして盛り上がりました》



12/5（土）にアダプテッドスポーツ無料体験教室が総合体育館で行われました。生活支援分科会は準備段階から関わり、当日は44名の参加がありました。

主催するサウスクラブは総合型地域スポーツクラブで、様々なスポーツ教室を通して地域交流を盛り上げています。このイベントは県の実施する障害者と健常者によるスポーツ交流促進事業として行われました。フライングディスクをはじめ4種のスポーツを体験しました。最後は、参加者全員が曲に合わせて古新聞を細かく破り、リーダーの掛け声に合わせて、その切れ端の塊を一斉に投げ上げ紙吹雪をつくるというものでした。イベントのフィナーレにふさわしく、大きな達成感を皆で分かち合うことができました。障害のあるなしに関係なく誰もがまた参加したいと思って頂けたのではないのでしょうか。今後も障害者の生活の質の向上をめざしサウスクラブとの協力関係を深めていきたいと思います。

新しいスタッフを紹介します



《草場 和子》

昨年10月に入職しました。他市で、医療機関、障害者、高齢者福祉の相談員として培ってきた経験を地元八女市のために発揮できればと思っています。よろしくお願いします。

「息子の成長を感じて」

がしま すばる
〜鹿島統治君のお母様より〜

自閉症の長男が昨春、地元の小学校に入学しました。息子は入学式が始まってひとりだけ席に着けず、声を上げながらウロウロするばかり。そんな姿をみて予想はしていたものの、私はこれでよかったのかと不安でいっぱいになりました。小学校生活が始まって不安は消えず、そんなときリーベルに相談しました。職員さんは私のために、同じような悩みを持ったことのある方と話をする場を設けてくれました。そのときにやっと、私だけが悩んでるのではないと気づくことができました。

その後、すぐに運動会がありました。私はまだ不安でしたがそのままの息子をしっかりと応援しようと思っていました。しかしその不安を吹き飛ばすように息子はお友達と一緒に踊ったり、かけっこを最後まで走ったり、入学式では考えられないくらいの成長をみせてくれました。そして、なによりその姿をみて、両手を挙げて喜んでくれる先生方がいました。涙を流して一緒に喜んでくれるお母さんたちがいました。

まだまだ課題や乗り越えることは沢山ありますが、この小学校で地域で、私は息子を育てたいと思っています。

映画「みんなの学校」上映会 木村泰子先生の講演会のご案内

と き 3月21日（月・祝）
受付 12:30～
映画 13:00～14:50
講演 15:10～16:30
「大空小学校で出会った子どもたち」
質疑 16:30～17:00
ところ おりなす八女ハーモニーホール
八女市本町602-1

木村泰子先生

入場無料です（申込不要）

※託児あり

事前申込みが必要です。3月4日までに連絡してください。
(Tel. 0943-22-2610
Em: liber-yame@marble.ocn.ne.jp リーベル宛)

編集後記

新しい年を迎え、新年の挨拶をしていたかと思うと、2月になり、時の早さを感じているところです。先日は福岡県も大寒波に見舞われ、大雪が降りました。いたる所で雪だるまを見かけ、その中にはアナと雪の女王に出てくるオラフもいました。❄️ここまで雪が積もったのは何年ぶりでしょうか。まだまだ寒い日が続きます。風邪にはお気を付けください。（堤）

第34号 八女地区障害者基幹相談支援センター

平成28年2月10日

リーベル通信

発行責任者：NPO 法人八女地区障害者相談支援センターリーベル

住所：八女市本町 17-2 電話：0943-22-2610 Fax：22-2664

Email liber-yame@marble.ocn.ne.jp URL http://liber-yame.net

新しい年を迎え、一言思いを申し上げます。

ここ数年の制度整備により、障害を持つ人たちの生活環境は大きく変わりました。事業所が提供するサービスを選び組み合わせながら、よりよい生活の設計をする時代となり、措置時代を知る者としては隔世の感を抱いています。一方で、介護保険制度の改定状況は障害者制度の未来が明るくないことも想像でき、決して安閑としている時でもないようです。

相談援助機関のリーベルは、一人ひとりの思いに沿った生活課題の解決のため、家族の方やサービス提供事業所のみなさん、関係機関との連携のもとにこの制度が維持されるよう、しっかりと声をあげていきたいと思っています。

センター長 永田 啓造

誰もが暮らしやすい"まち"を目指して ゆめタウン八女にてチラシを配布しました！

12月1日、平成28年4月1日より施行される“障害者差別解消法”を知って頂きたく、生活支援分科会の活動として、啓発活動をゆめタウン八女にて行いました。わたし達が生活している“まち”で、障害を持つ方はどのようなことに困っているのか、それに対して、わたし達は何が出来るのか？などを例に挙げ、チラシを作成しました。

活動当日は利用者の方にも参加して頂き、職員と共にチラシ配布を頑張りました。「簡単に言うと、どんな法律ですか？」と関心を持って頂いた方もあり、啓発活動としての意義を感じる時間となりました。同じ“まち”で生活している障害者の皆さんの現状を広く知って頂き、人にもっと優しい“まち”になっていく事を願って…。障害を持っているから妥協する、諦めるといった気持ちを抱かせず、生活支援分科会としては、障害者の皆

さんのQOL向上を目指した活動に今後も取り組んでいきたいと思っています。

障害者の問題は決して他人事ではありません。いつ何時、私たちも障害を負うかわかりません。この世の中どんな人でも互いに支えあいながら生きているものです。途中で障害を持ったすべての方が、人の温かさを感じる一方で、社会からの疎外感や差別感も実感すると言われます。障害者差別解消法の施行は、障害のある人もない人も気持ちよく社会で生きていけるように、皆で一緒に考えていく一歩になると思います。





分科会報告

就労

これからの精神保健福祉法、就労継続支援B型について

昨年 10 月の分科会は、一般社団法人えのき舎理事であり、福岡県精神保健福祉士協会会長でもある大山和宏氏をお迎えしました。精神保健福祉法の動向と、今後の就労継続支援 B 型の在り方について、えのき舎の取り組みを交えながら、講演していただきました。えのき舎では、毎日の面談、自宅訪問、同行支援等を積極的に行い、生活環境を整えることに重点を置いた支援をされています。主体が誰なのか、常に振り返りながら支援すること、支援者が諦めない、断らないことを大切にしているそうです。今後は、各事業所が自分たちの立ち位置や専門性を明確にし、ニーズに合わせて利用者を支援していくことが必要ではないかとの助言もいただきました。支援＝日頃の関わりの積み重ね。自分たちの支援はどうか？振り返って、また明日から頑張ろう！と、前向きな気持ちになれた研修会でした。



サンアクアTOTO株式会社へ 企業視察に行きました！



今回の企業視察は、就労支援機関としての役割を認識し、障害者の働きたいニーズに応えながら障害者雇用の理解を深めるという目的で、北九州にある特例子会社「サンアクア TOTO 株式会社」に行きました。当日は 18 名の委員が参加しました。



サンアクア TOTO 株式会社は 1993 年に福岡県、北九州市、TOTO の共同出資により設立された重度障害者雇用企業です。従業員 118 名の内 75 名が障害者の方で、主に TOTO の水栓金具や給排水金具の組み立て作業をされています。社内は一人一人の障害に応じて、環境が整えられていました。例えば、手すりの場所や広さが違うトイレがあったり、高さの違う洗面台があったりと様々な配慮がされており、働く人の声をもとに随時改善もされているそうです。今回、参加された委員より働きやすい環境作りとして参考になる点が多かった、作業場の整理が事故防止等に繋がるため自分の職場でもぜひ取り入れたい、という意見を頂きました。

教育

『事例検討：就学を見据えた本人支援・家族支援について考える』

平成 27 年 10 月 14 日、第 24 回教育分科会を開催しました。今回は、みんなの館 松尾淳子先生より進行性の疾患を持つお子さんへの支援について事例提供していただき、ご家族への支援とご本人への支援について、グループワークを行いました。

進行性の疾患は医療との連携が不可欠です。しかし、困っていることを具体的に見出せない家族にどのようにアプローチしていくのか、支援者としては大きな課題です。

ご家族への支援については情報交換できる場所の案内や親の会への参加の呼びかけを行い、家族内で抱え込んで孤立しないような支援が必要との意見。ご本人への支援については、学校など横の機関との連携や医療的サポートを継続するための同行支援などの意見が出ました。必要な時にすぐに繋ぐことができるよう日頃からのネットワーク作りの重要性や家族に寄り添うことの大切さを再認識させられた事例検討会となりました。



＝自立支援協議会＝



相談

重症心身障害についての理解を深めるために ～国立大牟田病院を訪問しました～

今年度、第 3 回目の相談支援分科会は国立病院機構大牟田病院で行いました。相談支援専門員として大牟田病院を訪問し、重症心身障害児者の方々と関わる機会があります。その中で本人の想いをどうしたら感じることができるだろうか？家族と本人の想いが違う場合、どう対応すればよいのだろうか？等、色々難しさを感じることがあります。

今回は療育指導室の下川先生、酒井先生から『重度心身障害児、者の方への対応やアプローチ』について講義をしていただきました。連携とは『複数の者（機関）が対等な立場に位置した上で、同じ目的を持ち、連絡を取りあいながら協力し合い、それぞれの者（機関の専門性）の役割を遂行すること』、療養介護病棟に求められる職員とは『福祉のわかる医療職員、医療のわかる福祉職員』等、大牟田病院での取り組みや連携の大切さ、本人や家族の思いの違いを擦り合わせていく難しさ等、現場で対応されている先生方の貴重なお話を聞くことができました。私たち相談支援専門員は利用者の方々の思いをしっかりと受け止め、医療機関との連携を図りながら、専門職として関わっていく大切さを改めて感じました。



スイッチを使ってパソコンの操作を試みました



文字盤を使つての意思伝達を体験しました

就労・教育

発達障害が疑われる学生の支援について それぞれの立場から考える



平成 27 年 12 月 18 日、就労・教育合同分科会を開催しました。

西日本短期大学の中野幹子教授より「発達障害が疑われる学生に対する支援」について問題提起していただき、グループワークにて活発な意見交換を行いました。短大入学当時は、何の手帳もない学生さんに、どのように指導し、進路保障していくのが大きな課題です。教育現場からの意見としては、進学するにあたり、所属からの障害特性の引き継ぎがあれば、本人にあった環境作りや対応ができるが、引き継ぎがない場合、保護者の理解を得るところから始まるので、どうやって保護者に伝えていくのが課題等、本人への支援のみならず保護者のケアが必要との声が多く聞かれました。受け入れる側（就労支援事業所）としては、在学期間中の適性検査実施希望、コミュニケーション力を養うためにも多くの体験が必要、事業所に繋がる時に、その生徒にあったコミュニケーション方法や障害特性をしっかりと伝えてもらうこと等の意見があがりました。高校から大学へ、大学から事業所へ、次のステップへ進む際には情報の引き継ぎ、連携が非常に重要であることを参加者全員で再確認した合同分科会になりました。

生活

10 月 21 日に第 3 2 回生活支援分科会を開催しました。今回は在宅利用者の介護保険移行に伴う事例についてグループごとに分かれ、介護保険移行後の生活や支援の方法を検討しました。討論後、各グループでサービス計画の発表となりました。従来のサービスをただパズルのように当

てはめるのではなく、介護保険への移行をきっかけに改めてアセスメントを行うこと、必要なサービスと不要なサービスの選別や代替サービスの有無、介護保険ならではのサービスも含めて検討することなどの提言がありました。参加者の多くは日頃介護保険に触れる機会がないので、事例を通して概要が理解できて良かったとの意見を多く頂きました。

